SORA
web magazine 2013.apr. vol.13

世界一の虹の島・ポナペ、再び！

20年前ほど、「西のパラオ、東のポンペイ」と言われていたほど、ダイビングが盛んだったポナペ。
島にやってくるゲストのほとんどが、ダイバーで年間5000人ほどいたという。
ずっとクローズしていた７色の島が再び復活した。

Photo & Text : Yasuaki Kagii

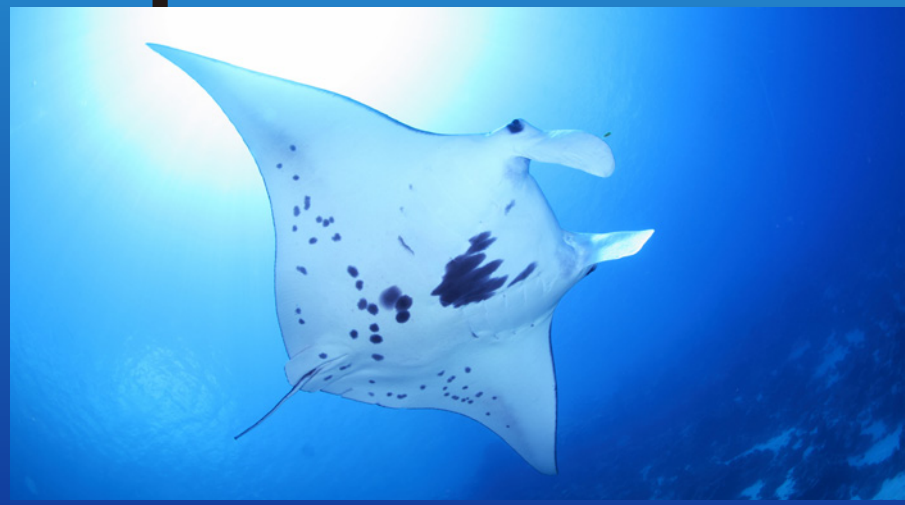
MAP CLICK!

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
tsumishima.com
World explorer
(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp
© 2012
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.

驚き Surprise

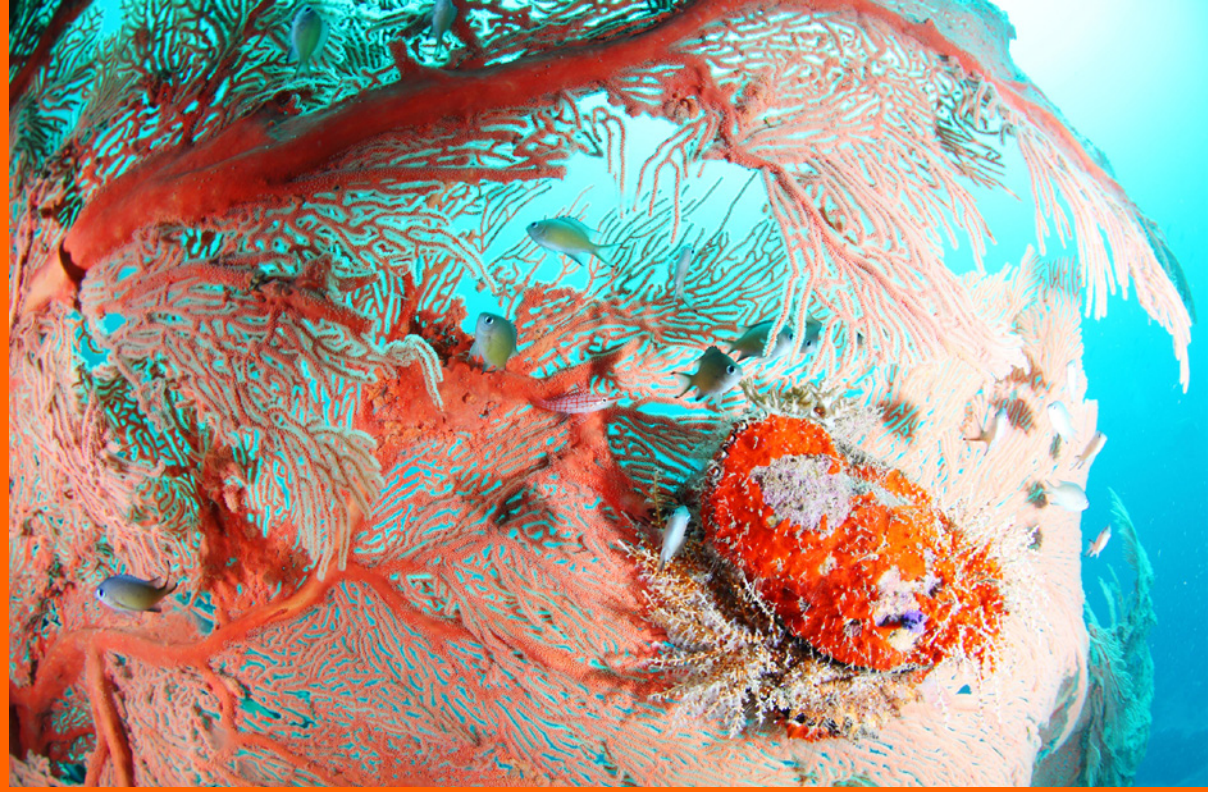
いきなり！「新しいマンタポイント」を開拓！

Ponape
［ポナペ］



ポナペは、環礁のパスでダイビングする大物ポイントが３つあり、その他にも有名なマンタロードというポイントがある。しかし、今回、マンタに出会ったのは、Ros（ロス）という南のポイント。実は、このポイントはこれまでアウトリーフのポイントして潜られていたが、リーフの中を調査してみると、なんとのマンタの捕食、クリーニングステーションであることが判明した。見つけたのは、今回お世話になったPirate Diving Service＜CLUB PAREO＞の栄田さん。「港からボートで約50分南下したポイントで、2012年の３月に見つけて以来から９割５分の確率でマンタが見られています。３割程度がブラックマンタです。アウトリーフが近いので、外洋性の生き物（サメなど）も見られます。サメとマンタが同じ視界の入ることもあるので面白いポイントだと思います。他にもマダラトビエイ、カマスアジ、ロウニンアジが回遊して、水面には常時、タカサゴが群れているので、海中は賑やかな雰囲気です」。

実際に２ダイブして、シャイなブラックマンタとフレンドリーなマンタと遭遇した。数日後に潜ったゲストは一度に5枚のマンタが現れたそうだ。これからも期待できるポイントだ。



Ponape
[ポナペ]

マンタだけじゃない。特徴的な景色と小さな生き物

魅力はマンタだけでない。実際に今回、マンタが出てくるまでに少し時間があったので、ゆっくりとポイントの雰囲気を楽しんだ。まず、面白かったのが、透明度。マングローブの栄養に影響されるこのポイントは、外洋からの潮流とマングローブからの少し濁った水が押し合いをしている。キンメモドキが群れる大きな根のクリーニングステーションで待っていると、周囲が濁ったかな？と思うと今度はいきなりクリアになったりした。そうすると、頭上でバタバタと捕食しているクマザサハナムロが気になり始め、メジロザメの姿もちらほら。濁った水が、この島の豊かな海を育んでいるのだと思うと、目に見えることでより一層、身近に感じることができる。狭い水路の反対側には大きなウチワがあって、そこでクダゴンベも見つけた。ゆっくり潜りたいポイントだ。

驚き
Surprise

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

Ocean 海

Ponape [ポナペ]

3つの大物パスは、透明度も高く、お魚たちがパレードしている！

島の西に位置する３つの大物ポイント。Plikir PassとDawahk PassとPoahloang pass。

Plikir Passは、ギンガメアジやバラクーダの群れを狙う大物ポイントで、今回は、9月に出産したてのメジロザメの親子の群れに出会うことができた。またパスの水面では、イルカも多く見られる。Dawahk Passもギンガメアジ、バラフエダイ、バラクーダ、オオメカマスの群れを狙うポイント。Poahloang passも中層のバラクーダの群れと少し深場にいるギンガメアジを楽しむポイント。コーナー先端の潮当たりの良い場所では、メジロザメの多く、縮小版「パラオのブルーコーナー」という感じだった。３つのポイントもトップリーフが10mくらくと少し深い。透明度も良いのでついつい自分のいる水深が、思っているよりも深いことが多いので、水深をしっかり確認して、大物との遭遇を楽しみたい。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

Ponape
[ポナペ]

海 Ocean

ポナペのおかしな潮流

ポナペの海を複雑に、また特徴的に演出しているのが、ポナペならではの潮流だ。

雨が多く降った後、環礁内の水位があがり、上げ潮が上がり切らない。または、上がらないために、下げ潮になることもある。平均的な雨では、環礁内のマングローブに蓄えられた栄養分のある水がパスに流れ出て、上げ潮とぶつかりながら、パス内で混ざり合い、他のエリアでは見られない潮流ができあがる。その栄養ある水のお蔭で、クマザサハナムロのなどが捕食モード全開となり、またそれを狙ってで大型のアジなどが回遊する。栄田さんは、「ダイビングをするタイミングで、最もコンディションの良いのは、外洋は青く、パス内が少し緑がかっている状態。その状況の時に、本当に多くのお魚が集まる。まるでいろんな魚種が混ざり合う、水族館のようになる。ポナペは、地形や風の関係で、それぞれのパスにはクセがあり、そのクセを読んで、潜る時間帯を見極めるのが大切なんです」と話してくれた。

アイドル種だってこの通り！

小さな生き物を求めて、インリーフのSeinwar（センワー）というポイントに潜る。外洋とはまた違ったサンゴの森の中には、ニシキテグリ、マンジュウイシモチなどが見られ、またチョウチョウウオの幼魚なども多い。浅場のダイビングで３ダイブ目に最適。ビーチダイブも可能。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

Ponape
[ポナペ]

Ocean 海

砂のビーチとクリアな透明度を求めて、憧れのアンツ環礁へ！

今回、お世話になった南の島のホテル・SNOW LANDの部屋の窓から、アンツ環礁が一望できる。朝、窓の外の眺めて、アンツ環礁上の雲の様子でその日の天候を占ってみたりする。「隣の環礁まで？」と聞くとどれほど遠いのかな、と思ってしまうが、スノーランドは、島の西側にあり、以前あったダイビングサービス（北側）よりもアクセスが良く、アンツ環礁まで、ぐんと近くなった。

環礁に渡る途中で、大きな鳥山を見つけて、フイッシングをした。ランチタイムに誰もいないビーチに上陸。白砂は少し赤い鉱石かサンゴが混じっていて、ほんのりピンク色。キャップテンにヤシガニを捕まえてもらったり、黄緑色の細い蔦が広がる森を見つけたり、少し散歩するだけで、冒険気分を満喫できる。

Romance ロマン

Ponape
[ポナペ]

まだまだ未開拓のアンツ環礁

アンツ環礁の海中も、まだ未開拓のポイントが多い。

今回は、「メインパス」という唯一の水路を中心にダイビングを行った。ポナペ島周辺よりも安定して、透明度が高く、豊かなサンゴ礁にバラクーダの行列などが見られるそうだ。今回も外洋側で、大物を探していると、リーフの深場から、ゆっくりマンタが泳いで上がってきた。ガイドの栄田さんのリアクションがあまりにも慌ててるので、そっちに私は興味がそそられた（笑）。マンタは真っ直ぐ私の前までやって来て、目の高さの位置で、ポーズを取ってくれた。「右上に行こうか？ 左上に行こうか？」と少し迷ったような様子で、ちょっとタイミングを置いて左上に泳いで行った。

このマンタもそうらしいが、アンツ環礁は、意外性のある出会いが多いらしい。環礁の北側では、ジンベイザメの目撃例も。

全部は知りたくない。夢の部分を残して、もう少しアンツ環礁のことを知ってみたい。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

にっぽん
Romance
Ponape
[ポナペ]
神話の森へ、ようこそ
tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We
World explorer

Romance ロマン

ナン・マドール遺跡

ポナペ島の持つ、どこか神秘的な空気感は、このナン・マドール遺跡に影響されているのだと思う。ナン・マドール遺跡はポナペ島の南東にあるムチャヌェン島の浅瀬にあり、0.8平方キロに広がる巨石造の海上都市跡である。ポナペ島産の玄武岩の角柱による建造は西暦500年代に始まり1500年中期まで続いていたと推測されており、11世紀から5～600年・16代（12代という説もあり）にわたりポナペを支配したサウテロー王朝の要塞として次第に拡大され、政治、宗教の中心となった場所。

1910年以降、ドイツ、日本の学者、スミソニアン協会などによる発掘調査などが行われ概要は明らかになった。しかし、どうしてこのような南海の島に巨大な遺跡があるのか？六または八角柱で1～9mの長さ、重さ数トンにおよぶ巨大な石材を、どのように運び、どのように築いたのか？は解明されていない。このようにミクロネシア最大の謎になった大きな理由は、その言い伝えが口承伝授であったためだ。SNOWLANDの茂田達郎さんは、その伝統を大切にし、他の人にはもう語れないナン・マドール遺跡の見解を遺跡の前で話してくれる。

Romance ロマン

ポナペは雨の島

ケプロイの滝。ポナペの観光名所として、有名な滝。ナン・マドール遺跡の近く、マトレニーム村にある。高さ20m余りある雄大な滝で、黒い玄武岩と白のコントラストが美しい。滝壺は天然のプールとなっていて、泳ぐこともできる。冷たく冷えたヤシの実ジュースを飲みながら、イオン水を感じていると、足元に神であるオオウナギが泳いでいた（笑）滝への道も南国の草木に飾られ、素敵な時間を過ごすことができた。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

Ponape
[ポナペ]

その恵みの雨は滝となり島の豊かさを象徴する

行動 Action

Ponape
[ポナペ]

ポナペの町、自然を見て歩く

1989年までミクロネシア連邦の首都であったコロニアはポナペ島にあり、政治、経済、文化の中心だった。町中には、銀行、病院、市場、レストランなどがある。日本統治時代に繁栄していた町で、町の中心には「並木通り」がかつての名前のまま残っており、現在では「ナミキ・ストリート」と呼ばれている。街中を歩くと、スペイン統治時代の砦や総督府や教会、ドイツ統治時代に建てられたカトリック教会がある。また、カラフルな色のレインボーツリーなども見られるので見所はたくさんある。

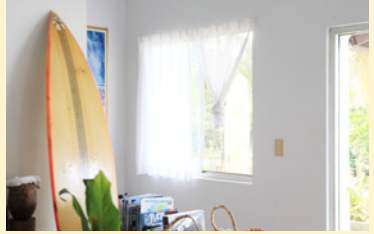
お土産にお薦めの民芸品・カピンガマランギ村

コロニアの西にあり、ポナペ島南方の小さな環礁、カピンガマンギの人々の村である。1900年の干ばつのため、ポナペの湾を見下ろす7.2ヘクタールの地に移住した。現在は約500人が住み、芸術家の村となっている。イルカやクジラ、マンタなどの木彫りを初めとする民芸品を作って販売している。大小様々な木の民芸品は、ポナペ空港で売られているなど、お土産として大変人気がある。

Pirate Diving Service CLUB PAREO

日本人の栄田さん、大久保さんが経営するダイビングショップ。長らく日本人ガイドが不在だったポナペ島に誕生した唯一の日本人のお店。１年以上かけて、ポナペの海を調査。独自のマンタポイントを見つけるなどして、2012年４月にオープンした。環礁と豊かなマングローブ林を持つ、独特の潮を読みながら、その日にベストなポイントを選択してくれる。アンツ環礁へのトリップも定期的に行う。また、少人数制のゲストのケアを大切する。現在は、昔、ポナペでダイビングを楽しんでいたゲストのリピートも多い。

行動 Action



Ponape
[ポナペ]

素敵だった南の島のホテル・Snow Land

今回の取材でお世話になったのは、南の島のホテル・Snow Land。ポナペの海と同じくらい素敵な思い出をくれた滞在先となった。オーナーの茂田さん、マユミさんご夫妻は、とても気さくでホスピタリティに溢れていた。取材旅行であったにも関わらず、ポナペの旅を私自身、十二分に楽しむことができた。神話などが残るポナペの遺跡や自然への造詣が深い茂田さん。麦わら帽子を被るとルフィのような少年？になってしまうマユミさんは、お料理がとても上手。ポナペという異国の地で、「地産地消」をモットーに本当に美味しいメニューを作ってくれる。特に新鮮でプリプリとしたカツオのお刺身は、それだけを食べることを目的にポナペに再来した忘れられない逸品だった。客室も２部屋続きの快適空間で、荷物の多いダイバーには嬉しい。そして大きな窓からは、アンツ環礁を望むことができる。同じ敷地内にダイビングセンター＜CLUB PAREO＞も併設されているので、朝の面倒な移動もなく、大変快適に休日を楽しむことができる。

Information

●国名：ミクロネシア連邦　ポナペ州 ●ビザ：残存期120日以上のパスポートと復路の航空券を所持していれば30日以内に限り不要 ●パスポート残存期間：120日+滞在日数以上が必要 ●言葉：公用語はポナペ語と英語 ●時差：日本との時差は+2時間。日本が正午の時、コスラエは午後2時 ●電圧：110V。プラグ形式も同じで日本の電化製品はそのまま利用可能 ●水：ミネラルウォーターを飲むこと。水道水は飲めない